

3. 大原、油日、佐山地域

(1) まとめ

- 空き家の維持管理や移住者の対応等の課題が増えていることとあわせ、市街化調整区域における制限の規制緩和を求めたいとの意見もあった。
- 現行の区役員への負担が大きいことを懸念する若者が多いことから、組織体制や行事・風習の見直しを行い、Uターン者を促進するような施策が必要。
- J R草津線の利便性の向上についての意見も多くあった。



(2) 個別意見（抜粋）

- ①30年後には地域内の空き家が50%となる。維持管理の徹底や空き家所有者からの協力金を徴収しなければ、地域が維持できない。
- ②市街化調整区域の規制緩和をしてほしい。
- ③地域の不満など、悪いところばかり言うとUターンしたくなくなる。地域のよいところを印象付けることが大切。
- ④次世代が住みやすいよう、行事・風習を今の世代が見直さなければならない。
- ⑤地域内の子どもが少なくなっている。これまでと同じようなイベントは開催できないし、必要もなくなりつつある。精査が必要。
- ⑥高齢者、働き世代、若者の意見や考え方の多様性が進んでいる。区・自治会単位でまとまることも難しくなりつつある。
- ⑦次の世代の人のためのコミュニティ（地域のつながり）について再考すべき時期である。いかに区・自治会をフェイドアウトしていくか考えなければ。
- ⑧昔であれば、近所の子どもやその親または祖父母まですぐに分かった。ご近所同士の付き合いが薄いのが課題。
- ⑨区民の高齢化により、草刈りや清掃活動などの奉仕作業を担う人がいない。
- ⑩災害時に大切になるのが、ご近所の連携である。学区単位で実践的な防災訓練を行ってはどうか。
- ⑪人口減少対策として、J R草津線の利便性の向上が必要である。J Rも民間企業であり、難しさもあるが継続的に取り組んでほしい。